

2024年度 学校関係者評価報告書

常翔学園中学校・高等学校

2024年度の学校自己評価に基づき、学校関係者評価委員の方々から評価と提言を頂きましたので報告いたします。

＜学校関係者評価委員会＞

委員会は後援会会長・後援会副会長（2名）・卒業生(2名)の5名の方で構成されています。

学校関係者評価委員の評価と提言

学校運営に関すること

○今年はグローバル探究コースが設立され、留学する機会も留学生と交流する機会も豊富になり、国際交流が盛んな学校になったという印象がある。それも、先生方の資質向上の努力の賜物であるということに感謝したい。また、校長先生もオンラインセミナーの開催など、先頭に立って情報発信に努めておられ、その取り組みを手本にして、教職員一丸となって学校運営に取り組んでいただきたい。

○学校間連携以外のすべての評価項目において前年度より更に低下しています。特に初任者のサポート状況に問題があるかと考えます。初任者（特に新卒者）に対して最低半年間の基礎研修が必要です。

○地域交流に関しては、淀川マラソンのボランティア等頑張っておられると思います。また前年度より文化祭への招待を復活されていますが、本項目はアフターコロナにおいても評価は低いままであり、文化祭への招待復活等の成果が反映されていないように見受けられます。招待の対象者の選定や告知方法（特に招待者に対する還元内容等）について再検討が必要ではないかと思います。

○愛校心に関して、「先生・生徒が強い信頼関係を構築し連携することで学力を伸ばす→大学進学の実績を更に伸ばす→世間からの評価が上がる→自身の学校に誇りを持つ→愛校心が高まる→同窓会の参加率も上がる」との流れで、はたちの集いやクラス同窓会といったとても素晴らしい会を主催されているので、今後ますます盛り上がって欲しいと思います。

○初任者のサポートに関して、低い評価が続いています。新任教員の確保が年々難しくなる中、せっかく採用できた教員がベテランになる前に辞めてしまえば、教員の安定的な確保にはつながりません。年代による考え方や接し方の違いもあり、サポートが難しい面もあるとは思いますが、これからも重点的に取り組んでいただきたいです。

○初任者のサポート状況評価が相変わらず低いです。どれぐらいの勤続年数で離職しているかが気になるところです。

○学校関係者の方々が学校運営に関してもっと関心を持って、関わってもらえると良いかと思います。関心を持つための工夫も必要ではないでしょうか。学校運営は上手くいっているようにうかがえるので、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

教務・教科指導に関すること

○この項目は、教員一人一人にあてはまるものであり自己評価の高さがうかがえます。悪く思わないのですが、本当に該当しているのか疑問に思います。

○スポーツ・芸術文化に関して、1年間を通して様々なイベントが充実しており保護者として大変魅力的に感じており、芸能鑑賞や球技大会は本人も毎年とても楽しんでいます。このような素晴らしい行事は単に開催するだけで終わりではなく、事前事後の教育もしっかりされており、本校教育の目的・目標が常に意識され大変有意義であると思います。

○学習指導の評価が上がっており、生徒の主体性が生きる改革が行われ、それが徐々に浸透してきているのがうかがえます。社会人との交流も積極的に行い、様々な交流や経験を通じて成長してほしいです。

○スポーツ、芸術文化活動を積極的に行っていることは、とてもありがたいです。学校関係者の方々のおかげです。今よりももっと必要である、思考力、判断力、表現力を向上させる教育に力を入れていただきたいと思います。

○芸術文化活動について、文化祭はカジノとメイド喫茶ばかりが目立ち、あまり独創性や創意工夫が感じられなかった。生徒の自主性を認める姿勢はいいと思うが、ある程度のテーマを与えて、クラスで一致団結して何かを作り上げる達成感を得られるイベントであって欲しかった。学習面については、新学習指導要領下における取り組みに先生方も悩んでいることとは思いますが、子供達の反応を見ながら、新しいことに挑戦し、双方のモチベーションアップにつなげていただきたい。

イノベーション教育に関すること

○若手教員、中堅教員が多いので新しい教育への取り組み、国際理解は教員の努力がうかがえます。

○新しい教育への取り組み及び国際交流共に、例年同様高ポイントとなっていることから分かる通り、本分野においては世間のニーズと共に常にアップデートされ、学校全体で熱心な取り組みがされていると感じます。

○「国際理解・交流」の分野では、さまざまな国や地域からの訪問が増えたことで、自然と国際交流の機会も増えています。実際に言葉や文化の違いに直接触れられることは、海外をより身近に感じるができる貴重な経験だと思います。今後は、こうした経験をこれからの国際社会で活かせるよう、さらに交流の機会を増やし、海外での活動にチャレンジできる人材の育成を期待します。

○いつオンライン授業になってもよい体制は、とても安心感があります。先生方で指導の差が出にくいように引き続き進めていただきたいと思います。

○国際交流が活発なのは、生徒たちにとってとても良い経験です。コースに偏らず満遍なく関わればなお良いと感じます。

○ICT 教育については、先生方も経験値を積み、スキル向上している実感があるので、ポイントが高いと推測される。デジタルネイティブである子供等にとっては、デジタル教材が当たり前であり、取り入れやすいとは思いますが、親世代から見ると、タブレットだけで完結させてしまう勉学のやり方には、多少不安を感じる。ノートをとるなど、昔のやり方と ICT をうまく組み合わせ、新しい学びを創造していただきたいと思います。

生徒指導に関すること

○この項目の半分は前年度より上昇し、教員、職員の生徒への指導がなされていると考えます。生徒への指導を更に徹底していただきたいと思います。

○部活動は生徒にとって学業と同等に重要であり、進学校ほど部活参加率は高く活発に活動されている傾向にあると思います。6 年一貫教育という環境の強みを生かして、大学受験までに時間的余裕が十分ある中学生の部活参加率が今後上がることを期待します。そのためには評価にも記載がある通り、活動日の設定見直し等に期待したい。学校全体として部活動が活発に行われている雰囲気を作り上げて欲しいと思います。

○情報モラル指導の評価が低いことに関して、急速にインターネット化が進む世の中において教員も含めた教育や知識が追い付いていないと感じるが、今後インターネットリテラシーの教育指導は急務であるので来年度以降のポイントアップを目指して注力して頂きたいです。

○「いじめ防止対策」が向上しています。それに伴い生徒の主体的な行動が増え、「ボランティア」の項目が高まっている点も非常に良い傾向だと思います。ボランティア活動や地域とのコミュニケーションを通じて、人との関わり方や関心の持ち方が自然に身についていくと思います。能登の被災地でのボランティア活動を通じ被災された方々のお話を聞いてどう感じたのか、その思いをどう伝えていくのか、自己満足で終わることなく、学校全体に広がるよう切に願います。

○学校行事が盛んで生徒たちも楽しんでいる様子が見えます。学校関係者の方々も一緒に楽しんでおられるのが一体感があって常翔の良さを感じます。いじめ防止に関する取り組みが少し不透明に思います。

○生徒会による、校則変更プロジェクトなど、生徒が中心となる学校作りを積極的にすすめており、学校と生徒がお互いの主張を話し合える場をもうけている姿勢は、共生社会の形成につながるものと高く評価している。能登の震災復興ボランティアやボランティアコンサートの開催など、世の中の動きに即座に反応し、学校として迅速な行動を起こせる姿勢は、たいへん素晴らしいと感じた。

進路指導に関すること

○進路指導においては、適正な支援体制がなされていると考えます。内部進学については、各大学と連携し、多くの生徒が進学出来るよう指導していただきたい。

○学園内大学の説明会及びオープンキャンパスの案内や参加等により、生徒や保護者に対して、積極的に学園内大学との関連を周知されているように感じます。学園内大学も進路の選択肢の一つとして持てることは生徒にとって強みとなると思いますので、より多くの生徒が内部進学 of 選択肢を持てることを期待します。また、進路指導は生徒の今後の人生において大きな分岐点となることから、生徒個々に応じた進路指導をきめ細やかに支援頂くことは大変重要であると考えます。本調査結果から、多くの先生方には本項目において高い意識を持って頂いていますが、少数派ではあります。一部の先生方が「あてはまらない」と回答されていることは気になります。生徒にとっては人生における重大なターニングポイントとなり得ることを意識して頂き、進路指導における先生方のサポートの重要性を理解頂ければと思います。

○生徒と保護者の進路に対する方向性を一致させるためにも、進路指導部の存在は非常に重要だと考えます。国公立大学や難関私立大学への進学も、生徒募集や学校の発展のために必要な要素だと思いますが、学園内にそれぞれ異なる特色を持つ 3 つの大学が存在していることは、大きな強みです。高校 1 年生の段階から説明会を実施するなど、さまざまな取り組みがなされていることと思いますが、保護者への理解が内部進学への後押しにつながることも事実です。学園内の大学と保護者との接触や交流の機会もさらに増やしていただきたいです。

○学年に応じた支援は行っているものの、生徒一人ひとりに対しては先生方の負担が大きいのか少し不十分だと感じます。もう少し生徒に寄り添った支援体制を希望します。

○二年次の進路指導については、学園内大学の PR 以外は、学校からの情報発信はほとんどなかったという認識です。近年の大学入試は、一般選抜よりも総合型選抜・学校推薦型選抜などの年内入試の入学者の方が多くなっており、一般選抜の割合が低くなってきていると聞いているが、従来のままの進路選びの方法でいいのか不安です。進路指導も情報のアップデートを行い、早め早めの対策を講じていただきたい。

保健及び危機管理に関すること

○保健室に関する項目は全体的に評価がよく、教員、職員の努力がうかがえます。

○今年度目標には満たなかったものの、毎年全項目において高水準での推移となっています。心身の健康面に関して先生方に高い意識を持って日々ご指導頂いていることがうかがえ、保護者としては安心できる学校環境であると思います。

○保健室での生徒相談やカウンセラーとの会話を通じて、不登校やいじめの兆候が見られた場合には、その情報を教員間で共有し、早期に対応していただければと思います。未然に防ぐためにも、日ごろからの情報共有・連携を大切にしてください。

○保健室は積極的に情報発信に努めておられ、ありがたいです。

○AED 講習会を全生徒に実施してもらえることを希望します。

○Classi による相談室だよりや保健だより等、保健室は情報発信に努めていると思う。今後も、声を出せない子供たちの心の拠り所として、子供たちに寄り添っていただきたい。

募集活動に関すること

○生徒募集に関する項目は、ホームページ掲載やオープンスクール等にて保護者や生徒に関心を持ってもらえるよう努力していただきたい。

○入試業務に関して、2025 年度入試の志願者数等の実績からも分かる通り、新たな入試制度の導入や、HP や説明会等による入試情報公開の成果が十分反映された結果になったと思います。「各コースに応じた学力をもった生徒を獲得している」の項目において今年度目標に 5 ポイント満たなかった点に関しては、今後の課題に挙げられている通り、学力が高い受験生からも本校が第一志望に選ばれる学校となるよう今後の取り組みに更なる期待をしています。

○高校授業料無償化の影響により、今後は生徒の確保の方法も変わっていくと思います。ホームページでは、行事や部活動の報告、校長ブログなどを通じて生徒の様子が発信されており、内容も充実していると感じます。ですが保護者の活動については情報が少ないため、後援会などの取り組みについても発信を検討していただけるとより良いと思います。保護者の皆さんからも「この学校に通わせたい」と選ばれるような学校づくりを期待しています。

○学校の HP、SNS 等で積極的に情報を公開していることはとても良いと思います。興味を持ってもらうには HP の更新が頻繁ではない気がします。常翔の良さをもっと発信して、魅力のある学園をアピールしていただきたいです。

○常翔学園の HP は、昨年大幅リニューアルされ、大変見やすくなった。他の私学と比べて、説明会やオープンスクールイベントが盛んで、実際に来てみてファンになる子は多いと思う。これからも、特色ある学園作りに期待している。

以上